

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391300031		
法人名	株式会社アキズファイブ		
事業所名	グループホーム憩		
所在地	愛知県名古屋守山区小幡中三丁目4番2号		
自己評価作成日	平成29年1月27日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心</li> <li>・やさしさ</li> <li>・だんらん</li> </ul> <p>自分の家の様にリラックスして自由にのんびりと自分らしく生活して頂く</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391300031-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391300031-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、昨年3月より、管理者が代表者から計画作成担当者に交代しており、新たな職員体制での取り組みが行われているが、家族や職員からの意見や要望等については、ホーム管理者の他にも代表者も対応する体制がつけられており、ホームの運営への反映につなげている。1ユニットのホームであるため、利用者一人ひとりに合わせた支援を行うように、職員間で日常的な情報交換等を行いながら、意向等に合わせた生活の実現につなげている。家族には、便箋にて毎月の手紙を書いており、利用者の近況を報告すると共に家族にホームへの理解を深めてもらうように取り組んでいる。毎日の食事については、利用者が過ごす場所の横のキッチンで調理を行っていることで、調理を行う音や匂いを身近に感じることができ、食事が楽しみになるような取り組みにもつながっている。</p>
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	管理者と職員は、理念を共有し利用者様の為に全力を上げている	元々つくられていた理念に、「だんらん」の言葉を加えており、利用者にとってホームが団らんの場であることを目指している。理念を事務室内に掲示し、職員への掲示も行われている。理念については、管理者が交代した後も同じように引き継がれている。	理念は、職員による支援の基本方針でもあるため、職員間での定期的な理念の振り返りの機会をつくる取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	残念ながら地域の方々とはほとんど交流していない	ホームは町内会に入っており、近隣の方との交流の機会がつけられている。また、毎月のボランティアを通じた交流の機会以外にも、ホームの隣がホーム建物のオーナーの自宅であり、オーナーを通じた地域の方との交流も行われている。	地域の方との交流の機会については、限られた範囲での交流になっている。管理者が交代していることもあり、交流の機会が増えるような取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人々には向けていないが、御家族様や知人には、理解の支援の方々を活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を行い、意見を伺っている	会議の開催については、年度のはじめに日程を決めて案内を行っていることで、定期的に出席してもらうような働きかけが行われている。また、行事を見てももらう機会をつくっており、ホームの取り組みを知ってもらうように取り組んでいる。	家族の関わりが以前よりも増えていることもある為、家族の会議への出席への継続した働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者とは、協力関係を築けていない	現状、ホームでは生活保護の方は生活していないが、引き続き、市の関係部署との情報交換等は行われている。また、区の市民祭りを通じたホームの発表会の取り組みについては、今年度も継続して行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関からリビングの入り口には施錠を行っているが、利用者も開錠できるため、職員により見守り等が行われている。1ユニットのホームでもあることで、日常的に職員間で意識するような取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	グループホームの内では、虐待はもちろんの事、常に暖かい心で接している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフ全員ではないが、個々に勉強し活用出来る様、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間を取って十分な説明をし、理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	反映させていない	ホームの敬老会の際には家族にも案内を行っており、多くの家族の参加が得られ交流につなげている。家族からの要望等については、ホーム管理者と法人代表者で対応している。また、利用者毎の報告を便りとして毎月発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させていない	日常的に職員間で意見交換が行われており、管理者を通じて法人代表者に報告され、運営への反映につなげている。また、管理者を法人代表者とは別の職員に変更したことで、随時の面談等の機会もつられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	分かりません		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	忙しくなかなかトレーニング出来ていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	知人、近くの同業者と交流を持ち仲良くしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	常に本人を観察し、見守りながら、要望等に耳を傾け安心、安全に心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	常に連絡をし、御家族の方々には、信頼関係で結ばれている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まず何が大切か、何が必要かを見極め、必要としているサービスを導入、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	御家族様以上に共に過ごし支えあう関係が十分出来ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族様とは常に連絡を取り、全員で本人を支えていく関係は出来ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	時には、電話なり、ハガキ、FAX等で、途切れない様、支援している	利用者の中には、遠方から利用者に会いに訪問している方や馴染みの方へ手紙を出している方がおり、関係継続にもつながっている。また、家族との関係継続については、一緒に外出してもらおう機会をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	皆様が仲良く、明るく、笑い声がたえない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	年賀状を始め、電話をしたり、いつまでも関係を続けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なるべく本人の希望、意向にそった暮らしを提供している	1ユニットのホームでもあるため、日常的な利用者に関する気付き等については、職員から管理者でもある計画作成担当者に報告されており、職員間での意向等の共有につなげている。また、毎月のカンファレンスの機会も設けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	あたり前の話であるサービス利用の経過は把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの健康状態に合わせ、その人らしく生活出来る様、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	1か月に1度の割合で、スタッフ一同、ミーティングをしながら介護計画を作成している	介護計画については、基本3～6か月で見直され、管理者である計画作成担当者が日常的な利用者の確認を行いながら、変化に合わせた見直しも行われている。また、モニタリングについても、計画の見直しに合わせて実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	常に行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	本人らしく安全で幸せな暮らしを考え常に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、御家族様の希望を十分に聞き、適切な医療を受けて頂いている	協力医とは定期的な訪問診療を通じた連携が行われている。受診支援については基本家族による対応であるが、ホームでも必要な支援を行っている。また、看護師が週1回訪問しており、利用者の健康チェックが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常に気を配り、情報や気づきを看護師等に伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	行っていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	チームで支え合って介護している。家族様とも話し合いを行っている	利用者の重度化への対応については、家族の意向には対応するように努めており、現状、ホームで重度の方が生活している。家族との話し合いを行いながら、ホームで支援できる取り組みが行われており、職員間での連携にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	スタッフは常に勉強し、努力し、訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の方と一緒に災害時に避難出来る様に訓練を積んでいる	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練等が行われている。前年度から計画されていたスプリンクラーの設置工事が終わり、安全面での取り組みも行われている。なお、地域の方との協力関係については、継続したテーマでもある。	地域の方との継続した協力関係の取組みに期待したい。また、ホーム内の食品等の備蓄品が充分ではない現状があるため、合わせて検討に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	誇りや人格を尊重し、見守り、お声掛けをしています	理念の中に「やさしさ」を入れており、利用者の気持ちを傷付けるような対応を行わないような言葉遣い等、職員の利用者への対応の基本としている。また、カンファレンスの時間を通じた、利用者への対応も話し合われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望第一にして、ほとんど希望は叶えています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様にそった支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	いくつになっても女性です。各自が身だしなみ、おしゃれをして、楽しんでおられます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事はゆっくり、楽しく、召し上がって頂いています	職員による調理が行われており、食材業者のメニューに基づき、時にはアレンジも行われている。利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、誕生日の際にはケーキを用意する等の楽しみも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	病気持ちの方や、きざみ、ミキサー食、一人一人の状態に合わせた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一日三回、歯磨きをはじめ、うがい等、口腔ケアには力を入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	気持ちはありますが、自立に向けた支援は出来ていません	利用者全員の排泄記録を残しており、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。利用者により、排泄状態が改善した方もいる。また、毎日の体操の時間をつくっており、排泄状態の維持につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を多く取ったり、野菜を取ってもらったりして予防している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	これは出来ていません。施設に合わせて入浴して頂いていますが、のんびり、ゆっくり入って頂いています	入浴については、週2～3回の午後に時間に行われている。重度の方が生活している現状もあり、職員複数での入浴介助も行っている。また、柚子湯、菖蒲湯等の季節の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自由に一人一人の生活に応じて、生活が出来ます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様の1/3が理解しておられますが、後は分かりません		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	誕生日会、花見、七夕を始め、又、ボランティアの方々が定期的に来て下さったり、喜びのある日々を与えています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩のみ。後は御家族様とお出掛けをしておられます	ホーム近隣の散歩の他にも、様子を見ながら少人数の利用者で外出する機会もつくっている。また、季節に合わせた花見等の外出行事の他にも、時には車でビール工場に出かける取り組みも行われている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はお預かりいて(金庫)職員が管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	出来る利用者様は毎日、娘様に電話や手紙を書いておられますが、後の方々は認知が酷く出来ません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月、季節に合った工作を取り入れたり、季節、季節でその時に合ったものを提供している	リビングは窓が大きく採光に優れており、利用者は日中の時間を明るい雰囲気ですごすことができる。また、リビングの壁には、毎月ボランティアの方による季節に合わせた切り絵が飾られてあり、雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングで皆様会話をしたり、テレビを観たりしながら、ゆっくりと仲間同士楽しんでおられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真を始め、使い慣れた物、本人が拘りのある物等々飾っておられる	居室には、入居前からの持ち込みがない方にも配慮して家具類が用意されているが、利用者により、様々な物の持ち込みが行われている方もいる。また、趣味の物を飾っている方もおり、利用者に合わせた居室づくりも行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立出来る人は自立した生活を送って頂ける様工夫している		